

平成28年度事業評価シート

事業名		41400		救急医療対策事業費		担当課		市民保健部医療課		内線		
										2801		
予算	会計	1	一般会計			総合計画	基本分野	4	福祉・保健			
	款	4	衛生費				個別分野	6	医療			
	項	1	保健衛生費				施策の概要					
	目	4	地域医療対策費									
根拠計画												
実施計画事業		救急医療対策事業										

1 事業の目的・概要(Plan)

目的	誰を(対象)	全市民	対象者数	90,024 人
	どういう状態にしたいのか(意図)	・市民が休日夜間に急病になったときに受診できる医療体制を整え、市民全体が安心して暮らせるようにする		
概要	事業の実施手法(手段)	・休日(日・祝・年末年始)の医科及び歯科診療所を開設 ・救急医療施設(救命救急センター等)の運営費の助成 ・24時間電話健康・医療相談事業の実施や救急早見表の配布などによる救急医療の適正な受診啓発		

2 事業の推移・結果(Do)

成果面	H27の実績		休日診療所開設状況 〔医科〕69日開設 患者数 1,417人 〔歯科〕52日開設 患者数 85人 高山赤十字病院の救命救急センター運営費等の助成の実施 24時間電話健康・医療相談事業の実施						
	指標名		単位	目標・実績	H27	H28	H29	H30	H31
	活動指標	延べ診療日数	日	目標値					
				実績値	69	—	—	—	—
		算出根拠等	診療実日数	達成率(%)		—	—	—	—
		市内救急医療機関数(2次、3次)	箇所	目標値	2	2	2	2	2
				実績値	2	—	—	—	—
		算出根拠等		達成率(%)	100	—	—	—	—
	成果指標			目標値					
				実績値		—	—	—	—
		算出根拠等		達成率(%)		—	—	—	—
		延べ利用患者数(医科)	人	目標値					
				実績値	1,417	—	—	—	—
		算出根拠等	延べ患者数	達成率(%)		—	—	—	—
コスト面	財源内訳	延べ利用患者数(歯科)	人	目標値					
				実績値	85	—	—	—	—
		算出根拠等		達成率(%)		—	—	—	—
		救急医療機関数(2次、3次)利用患者数	人	目標値					
				実績値	20,812	—	—	—	—
		算出根拠等		達成率(%)		—	—	—	—
コスト面	コスト指標	事業費 (人件費を除き繰越・補正を含む)		H27 決算額	H28 予算額	H29 予算額	H30 予算額	H31 予算額	
		歳出(千円)		(A)	100,953	102,054	—	—	—
		受益者負担(使用料・負担金等)			34,651	34,695	—	—	—
		その他特定財源(国・県支出金・起債等)			0	0	—	—	—
		一般財源			66,302	67,359	—	—	—
		受益者1件当たり(円)		(A÷B)	1,110	1,134	—	—	—
コスト面	指標	受益者	全市民	(B)	90,938	90,024	—	—	—

3 分析・評価(Check) ※平成27年度の実績を評価

評価項目		評価観点	評価基準		評価	評価内容の説明(評価の理由等)
①	市民ニーズの確認	・事業実施に対する市民ニーズの傾向はどうか ・社会情勢の変化など時の経過に伴いニーズは減少していないか	A (2)	ニーズが高い	A	・救急医療体制の充実については、市民のニーズも高い
			B (1)	ある程度のニーズがある		
			C (0)	ニーズが低い		
②	市が実施する必要性	・市が事業主体であることは妥当か ・国・県・民間の活動と競合していないか	A (2)	事業主体を見直す余地はない	A	・市が休日診療所を開設することにより、救急医療施設が患者の重症度に応じた対応をすることができる ・救急医療体制の維持は、その費用が高額なこともあり、民間病院だけでは困難であるため、引き続き市による支援が必要である。
			B (1)	一部見直しが必要である		
			C (0)	市が実施する必要性が低い		
③	活動内容の有効性	・目的とする成果があがっているか ・成果指標などの目標値の達成状況はどうか	A (2)	目的とする成果が十分にあがっている	B	・休日歯科診療の利用度が低い
			B (1)	目的とする成果がある程度あがっている		
			C (0)	目的とする成果があがっていないため大幅な見直しが必要である		
④	執行方法の効率性	・最小限のコストで事業を実施できているか ・委託化など事業の効率化・省力化に向け実施手法に改善の余地はないか ・国等の補助金の活用など市の財政負担を軽減する余地はないか ・受益者負担は適正か	A (2)	事業効率化・コスト縮減等の改善の余地はない	A	・救急医療体制の確保という点において、受益者1人当たりのコストは適正である
			B (1)	事業効率化・コスト縮減等がある程度図られている		
			C (0)	効率化が図られていないため大幅な見直しが必要である		
⑤	政策面における効果	・事業の実施が市の政策、施策の推進に効果があったか ・総合計画及び主要計画等の目標達成を図る上で有効に機能したか	A (2)	効果があった	A	・市民が安心して救急医療が受けられる環境整備に寄与している
			B (1)	ある程度効果があった		
			C (0)	あまり効果が見られなかった		

合計		9 / 10	→	100点換算	90 点
----	--	--------	---	--------	------

分析・評価で明らかにになった課題 (「A」評価にするために何が 必要なのかを記入)	・軽症患者の2次・3次救急医療機関利用回避のため、1次救急機関である休日診療所の利用を市民に周知する必要がある。 ・休日診療所(医科・歯科)のあり方について検討をする必要がある。
---	--

(参考) 前年度事業評価結果 (二次評価)	・利用状況の把握・検証を行いつつ、第一次救急医療の確保に努める必要がある。
-----------------------------	---------------------------------------

4 今後の方向性(Action)

課題等に対する 28年度の対応状況	・広報紙、ヒットFM、ヒットネットTV等を活用し、休日診療所について周知を図る。 ・高山市休日診療所運営委員会で、休日診療所(医科・歯科)のあり方を検討する。
----------------------	--

担当課における 次年度の考え方	O	維持・改善		拡大		縮小		廃止の検討		H27完了		H28完了予定
	・休日の救急医療の確保は、市民がいつでも安心して医療を受けられる環境整備のため重要であり、今後も休日診療所を継続する。 ・救急医療施設の運営支援については、市民が安心して暮らせるための基本であり、引き続き事業を実施する。											

平成28年度事業評価シート

事業名		41410	医師確保等支援事業費		担当課		市民保健部医療課		内線
									2801
予算	会計	1	一般会計		総合計画	基本分野	4	福祉・保健	
	款	4	衛生費			個別分野	6	医療	
	項	1	保健衛生費			施策の概要			
	目	4	地域医療対策費						
根拠計画									
実施計画事業			医師確保等支援事業						

1 事業の目的・概要(Plan)

目的	誰を(対象)	全市民	対象者数	90,024 人
	どういう状態にしたいのか(意図)	・市民が良質で適正な医療サービスを受けることができるよう医療体制の確保と充実を図る		
概要	事業の実施手法(手段)	・市内中核病院の医療施設、機器の整備、院内保育所の運営、医師及び臨床研修医等の確保に対する支援 ・医学生などに向けたセミナーの開催		

2 事業の推移・結果(Do)

成果面	H27の実績		高山赤十字病院、久美愛厚生病院へ医師確保や医療機器整備等に対する助成を実施 医学生などに向けたセミナーの実施						
	指標名		単位	目標・実績	H27	H28	H29	H30	H31
	活動指標			目標値					
				実績値		—	—	—	—
		算出根拠等		達成率(%)		—	—	—	—
				目標値					
				実績値		—	—	—	—
				達成率(%)		—	—	—	—
	成果指標	市市中核病院の医師数	人	目標値	119	119	119	119	119
				実績値	90	—	—	—	—
		算出根拠等		達成率(%)	76	—	—	—	—
				目標値					
				実績値		—	—	—	—
				達成率(%)		—	—	—	—
コスト面	事業費 (人件費を除き繰越・補正を含む)			H27 決算額	H28 予算額	H29 予算額	H30 予算額	H31 予算額	
	歳出 (千円) (A)			116,306	126,580	—	—	—	
	受益者負担(使用料・負担金等)			0	0	—	—	—	
	その他特定財源(国・県支出金・起債等)			0	22,358	—	—	—	
	一般財源			116,306	104,222	—	—	—	
	受益者1件当たり(円) (A÷B)			1,279	1,406	—	—	—	
コスト指標	受益者	全市民	(B)	90,938	90,024	—	—	—	

3 分析・評価(Check) ※平成27年度の実績を評価

評価項目		評価観点	評価基準		評価	評価内容の説明(評価の理由等)
①	市民ニーズの確認	・事業実施に対する市民ニーズの傾向はどうか ・社会情勢の変化など時の経過に伴いニーズは減少していないか	A (2)	ニーズが高い	A	・地域医療体制の充実については、市民のニーズも高い
			B (1)	ある程度のニーズがある		
			C (0)	ニーズが低い		
②	市が実施する必要性	・市が事業主体であることは妥当か ・国・県・民間の活動と競合していないか	A (2)	事業主体を見直す余地はない	A	・医療に関する人材の確保や高度医療機器等の費用は高額なこともあり、民間病院だけでは困難であるため、引き続き市による支援が必要である。
			B (1)	一部見直しが必要である		
			C (0)	市が実施する必要性が低い		
③	活動内容の有効性	・目的とする成果があがっているか ・成果指標などの目標値の達成状況はどうか	A (2)	目的とする成果が十分にあげている	B	・特定診療科医師の不足が続いている
			B (1)	目的とする成果がある程度あがっている		
			C (0)	目的とする成果があがっていないため大幅な見直しが必要である		
④	執行方法の効率性	・最小限のコストで事業を実施できているか ・委託化など事業の効率化・省力化に向け実施手法に改善の余地はないか ・国等の補助金の活用など市の財政負担を軽減する余地はないか ・受益者負担は適正か	A (2)	事業効率化・コスト縮減等の改善の余地はない	B	・中核病院への補助金については成果等を検証する中で、更なる効果的な支援について検討していく
			B (1)	事業効率化・コスト縮減等がある程度図られている		
			C (0)	効率化が図られていないため大幅な見直しが必要である		
⑤	政策面における効果	・事業の実施が市の政策、施策の推進に効果があったか ・総合計画及び主要計画等の目標達成を図る上で有効に機能したか	A (2)	効果があった	A	・市民が安心して地域医療が受けられる環境整備に寄与している
			B (1)	ある程度効果があった		
			C (0)	あまり効果が見られなかった		

4 今後の方向性(Action)

課題等に対する28年度の対応状況	・市内中核病院の医療体制確保の支援については、ヒアリングを継続し実態に応じた対応を行う。 ・地域全体の将来の医師確保のため、各方面への働き掛けや、将来の医療の確保に繋げる医学生等を対象としたセミナーの開催を引き続き実施する。 ・飛騨保健所を中心とし、飛騨圏域の医療体制を検討する。									
担当課における次年度の考え方	○	維持・改善		拡大		縮小		廃止の検討		
	・市内中核病院の医療体制確保の支援については、ヒアリングを継続し実態に応じた対応を行う。 ・地域全体の将来の医師確保のため、各方面への働き掛けや、将来の医療の確保に繋げる医学生等を対象としたセミナーの開催を引き続き実施する。 ・飛騨保健所を中心とし、飛騨圏域の医療体制を検討する。									
				H27完了		H28完了予定				

平成28年度事業評価シート

事業名		41415	中核病院整備費助成事業費		担当課		市民保健部医療課		内線
									2801
予算	会計	1	一般会計		総合計画	基本分野	4	福祉・保健	
	款	4	衛生費			個別分野	6	医療	
	項	1	保健衛生費						
	目	4	地域医療対策費			施策の概要	1	地域医療体制の充実	
根拠計画									
実施計画事業			中核病院整備費助成事業						

1 事業の目的・概要(Plan)

目的	誰を(対象)	全市民	対象者数	90,024 人
	どうい状態にしたいのか(意図)	・市民が良質で適正な医療サービスを受けることができるよう医療体制の確保と充実を図る		
概要	事業の実施手法(手段)	・久美愛厚生病院施設整備に対する助成		

2 事業の推移・結果(Do)

成果面	H27の実績		・久美愛厚生病院施設整備に対する助成を実施							
	指標名			単位	目標・実績	H27	H28	H29	H30	H31
	活動指標			目標値						
				実績値		—	—	—	—	
		算出根拠等	診療実日数	達成率(%)		—	—	—	—	
				目標値						
				実績値		—	—	—	—	
		算出根拠等		達成率(%)		—	—	—	—	
				目標値						
				実績値		—	—	—	—	
	算出根拠等		達成率(%)		—	—	—	—		
	成果指標	久美愛厚生病院の医師数	人	目標値	42	42	42	42	42	
				実績値	28	—	—	—	—	
		算出根拠等		達成率(%)	67	—	—	—	—	
				目標値						
				実績値		—	—	—	—	
		算出根拠等		達成率(%)		—	—	—	—	
				目標値						
			実績値		—	—	—	—		
算出根拠等		達成率(%)		—	—	—	—			
コスト面	事業費 (人件費を除き繰越・補正を含む)				H27 決算額	H28 予算額	H29 予算額	H30 予算額	H31 予算額	
	歳出 (千円) (A)				200,000	200,000	—	—	—	
	財源内訳	受益者負担(使用料・負担金等)				0	0	—	—	—
		その他特定財源(国・県支出金・起債等)				0	0	—	—	—
		一般財源				200,000	200,000	—	—	—
	コスト指標	受益者1件当たり(円) (A／B)				2,199	2,222	—	—	—
		受益者	全市民	(B)	90,938	90,024	—	—	—	

3 分析・評価(Check) ※平成27年度の実績を評価

評価項目		評価観点	評価基準		評価	評価内容の説明(評価の理由等)
①	市民ニーズの確認	・事業実施に対する市民ニーズの傾向はどうか ・社会情勢の変化など時の経過に伴いニーズは減少していないか	A (2)	ニーズが高い	A	・地域医療体制の充実については、市民のニーズが高い
			B (1)	ある程度のニーズがある		
			C (0)	ニーズが低い		
②	市が実施する必要性	・市が事業主体であることは妥当か ・国・県・民間の活動と競合していないか	A (2)	事業主体を見直す余地はない	A	・中核病院施設整備は高額であり、民間病院だけでは困難であるため、引き続き市による支援が必要である。
			B (1)	一部見直しが必要である		
			C (0)	市が実施する必要性が低い		
③	活動内容の有効性	・目的とする成果があがっているか ・成果指標などの目標値の達成状況はどうか	A (2)	目的とする成果が十分にあがっている	B	・久美愛厚生病院施設整備により、質の高い医療の提供が可能になっている
			B (1)	目的とする成果がある程度あがっている		
			C (0)	目的とする成果があがっていないため大幅な見直しが必要である		
④	執行方法の効率性	・最小限のコストで事業を実施できているか ・委託化など事業の効率化・省力化に向け実施手法に改善の余地はないか ・国等の補助金の活用など市の財政負担を軽減する余地はないか ・受益者負担は適正か	A (2)	事業効率化・コスト縮減等の改善の余地はない	A	・地域医療を確保するという事業の性格から判断して概ね適正である。
			B (1)	事業効率化・コスト縮減等がある程度図られている		
			C (0)	効率化が図られていないため大幅な見直しが必要である		
⑤	政策面における効果	・事業の実施が市の政策、施策の推進に効果があったか ・総合計画及び主要計画等の目標達成を図る上で有効に機能したか	A (2)	効果があった	A	・市民が安心して地域医療が受けられる環境整備に寄与している
			B (1)	ある程度効果があった		
			C (0)	あまり効果が見られなかった		

合計		9 / 10	→	100点換算	90 点
----	--	--------	---	--------	------

分析・評価で明らかにになった課題 (「A」評価にするために何が必要なかを記入)	・久美愛厚生病院施設整備を図るため引き続き支援が必要。
--	-----------------------------

(参考) 前年度事業評価結果 (二次評価)	・医療機関への支援については、これまでの支援による効果の検証と医療機関の状況を踏まえた見直しを行う必要がある。
-----------------------------	---

4 今後の方向性(Action)

課題等に対する28年度の対応状況	・久美愛厚生病院施設整備を図るため引き続き支援を行う。
------------------	-----------------------------

担当課における 次年度の考え方	<table><tr><td>○</td><td>維持・改善</td><td></td><td>拡大</td><td></td><td>縮小</td><td></td><td>廃止の検討</td><td></td><td>H27完了</td><td>H28完了予定</td></tr></table>										○	維持・改善		拡大		縮小		廃止の検討		H27完了	H28完了予定
	○	維持・改善		拡大		縮小		廃止の検討		H27完了	H28完了予定										
・久美愛厚生病院施設整備を図るため引き続き支援を行う。																					

平成28年度事業評価シート

事業名		11100	一般管理費		担当課		市民保健部医療課		内線
									2801
予算	会計	3	国民健康保険事業特別会計(直営診療施設助定)		総合計画	基本分野	4	福祉・保健	
	款	1	総務費			個別分野	6	医療	
	項	1	総務管理費			施策の概要	1	地域医療体制の充実	
	目	1	一般管理費						
根拠計画									
実施計画事業			直営診療所運営事業(特別会計)						

1 事業の目的・概要(Plan)

目的	誰を(対象)	対象施設診療圏域住民(利用患者)	対象者数	12,473 人
	どういう状態にしたいのか(意図)	・地域住民がいつでも安心して医療が受けられる環境の整備とへき地医療の確保を図る		
概要	事業の実施手法(手段)	・医療サービス、介護サービスの提供 ・予防接種、健診事業の実施 ・施設管理、施設整備		

2 事業の推移・結果(Do)

成果面	H27の実績		診療所開設状況(6か所) 延べ診察日数 1,329日 延べ利用患者数 30,274人						
	指標名		単位	目標・実績	H27	H28	H29	H30	H31
	活動指標	延べ診療日数	日	目標値					
				実績値	1,329	—	—	—	—
		算出根拠等	各診療所の診療実日数	達成率(%)		—	—	—	—
				目標値					
				実績値		—	—	—	—
		算出根拠等		達成率(%)		—	—	—	—
	成果指標			目標値					
				実績値		—	—	—	—
		算出根拠等		達成率(%)		—	—	—	—
				目標値					
				実績値		—	—	—	—
		算出根拠等		達成率(%)		—	—	—	—
	コスト面	延べ利用患者数	人	目標値					
				実績値	30,274	—	—	—	—
		算出根拠等	各診療所の利用患者数	達成率(%)		—	—	—	—
				目標値					
				実績値		—	—	—	—
		算出根拠等		達成率(%)		—	—	—	—
コスト面	事業費 (人件費を除き繰越・補正を含む)			H27 決算額	H28 予算額	H29 予算額	H30 予算額	H31 予算額	
	歳出(千円)			(A)	74,499	74,836	—	—	—
	財源内訳	受益者負担(使用料・負担金等)			30,920	30,096	—	—	—
		その他特定財源(国・県支出金・起債等)			43,579	44,740	—	—	—
		一般財源			0	0	—	—	—
	コスト指標	受益者1件当たり(円)			(A/B)	5,875	6,000	—	—
		受益者	対象施設診療圏域住民		(B)	12,681	12,473	—	—

3 分析・評価(Check) ※平成27年度の実績を評価

評価項目		評価観点	評価基準		評価	評価内容の説明(評価の理由等)
①	市民ニーズの確認	・事業実施に対する市民ニーズの傾向はどうか ・社会情勢の変化など時の経過に伴いニーズは減少していないか	A (2)	ニーズが高い	A	・遠隔地の医療確保に対する地域住民の要望は大きいことから必要性は非常に高い
			B (1)	ある程度のニーズがある		
			C (0)	ニーズが低い		
②	市が実施する必要性	・市が事業主体であることは妥当か ・国・県・民間の活動と競合していないか	A (2)	事業主体を見直す余地はない	A	・へき地医療においては民間医療機関では特に採算制の面から事業の継続が難しいため、引き続き市による診療所の運営が必要である
			B (1)	一部見直しが必要である		
			C (0)	市が実施する必要性が低い		
③	活動内容の有効性	・目的とする成果があがっているか ・成果指標などの目標値の達成状況はどうか	A (2)	目的とする成果が十分にあげている	B	・地域に唯一の総合的な医療を提供するかかりつけ医として、地域住民の安心安全な暮らしの実現を図るうえで「へき地診療所」は重要な役割を担っている ・施設設備の老朽化が進んでおり、適正な対応が必要
			B (1)	目的とする成果がある程度あがっている		
			C (0)	目的とする成果があがっていないため大幅な見直しが必要である		
④	執行方法の効率性	・最小限のコストで事業を実施できているか ・委託化など事業の効率化・省力化に向け実施手法に改善の余地はないか ・国等の補助金の活用など市の財政負担を軽減する余地はないか ・受益者負担は適正か	A (2)	事業効率化・コスト縮減等の改善の余地はない	B	・後発医薬品の積極的な採用を図っている
			B (1)	事業効率化・コスト縮減等がある程度図られている		
			C (0)	効率化が図られていないため大幅な見直しが必要である		
⑤	政策面における効果	・事業の実施が市の政策、施策の推進に効果があったか ・総合計画及び主要計画等の目標達成を図る上で有効に機能したか	A (2)	効果があった	A	・直営診療所の適正な運営を図ることにより、市民がいつでも安心して医療が受けられる環境整備に寄与している
			B (1)	ある程度効果があった		
			C (0)	あまり効果が見られなかった		

分析・評価で明らかにになった課題(「A」評価にするために何が必要なかを記入)	・業務の効率化や後発医薬品の利用割合の増と院外処方への活用のほか、全体的な診療所体制等の検討が必要。
--	--

(参考)前年度事業評価結果(二次評価)	・地域医療の状況を勘案しながら、医師の確保、施設の配置、業務体制の見直しを行う必要がある。 ・院外処方への移行に伴う職員体制の見直しを検討する必要がある。
---------------------	--

4 今後の方向性(Action)

課題等に対する28年度の対応状況	・診療所運営委員会などにおいて各診療所の情報を共有するとともに、体制及び診療の効率化を検討する。
------------------	--

担当課における次年度の考え方	O	維持・改善		拡大		縮小		廃止の検討		H27完了		H28完了予定
	・老朽化している診療所・医師住宅の修繕など環境整備を行うとともに、南高山地域(久々野・朝日・高根)の診療体制を検証し、継続可能な医療体制の提供を検討する。											

平成28年度事業評価シート

事業名		21100	医療用機械器具費		担当課		市民保健部医療課		内線
									2801
予算	会計	3	国民健康保険事業特別会計(直営診療施設勘定)		総合計画	基本分野	4	福祉・保健	
	款	2	医療費			個別分野	6	医療	
	項	1	医療費			施策の概要	1	地域医療体制の充実	
	目	1	医療用機械器具費						
根拠計画									
実施計画事業			直営診療所運営事業(特別会計)						

1 事業の目的・概要(Plan)

目的	誰を(対象)	対象施設診療圏域住民(利用患者)			対象者数	12,473 人
	どういう状態にしたいのか(意図)	・地域住民がいつでも安心して医療が受けられる環境の整備とへき地医療の確保を図る				
概要	事業の実施手法(手段)	・医療用機器の維持管理 ・医療用機器の更新				

2 事業の推移・結果(Do)

成果面	H27の実績		診療所開設状況(6か所) 延べ診察日数 1,329日 延べ利用患者数 30,274人								
	指標名		単位	目標・実績	H27	H28	H29	H30	H31		
	活動指標	延べ診察日数	日	目標値							
				実績値	1,329	—	—	—	—		
		算出根拠等	各診療所の診療実日数	達成率(%)		—	—	—	—		
				目標値							
		算出根拠等		実績値		—	—	—	—		
				達成率(%)		—	—	—	—		
	目標値										
				実績値		—	—	—	—		
	成果指標	算出根拠等		達成率(%)		—	—	—	—		
				目標値							
		延べ利用患者数	人	目標値							
				実績値	30,274	—	—	—	—		
				算出根拠等	各診療所の利用患者数	達成率(%)		—	—	—	—
						目標値					
	算出根拠等		実績値		—	—	—	—			
			達成率(%)		—	—	—	—			
目標値											
			実績値		—	—	—	—			
コスト面	事業費 (人件費を除き繰越・補正を含む)				H27 決算額	H28 予算額	H29 予算額	H30 予算額	H31 予算額		
	歳出(千円)				(A)	16,649	59,700	—	—	—	
	財源内訳	受益者負担(使用料・負担金等)				9,341	45,770	—	—	—	
		その他特定財源(国・県支出金・起債等)				7,308	13,930	—	—	—	
		一般財源				0	0	—	—	—	
	コスト指標	受益者1件当たり(円)				(A/B)	1,313	4,786	—	—	
		受益者	対象施設診療圏域住民			(B)	12,681	12,473	—	—	

3 分析・評価(Check) ※平成27年度の実績を評価

評価項目		評価観点	評価基準		評価	評価内容の説明(評価の理由等)
①	市民ニーズの確認	・事業実施に対する市民ニーズの傾向はどうか ・社会情勢の変化など時の経過に伴いニーズは減少していないか	A (2)	ニーズが高い	A	・遠隔地の医療確保に対する地域住民の要望は大きいことから必要性は非常に高い
			B (1)	ある程度のニーズがある		
			C (0)	ニーズが低い		
②	市が実施する必要性	・市が事業主体であることは妥当か ・国・県・民間の活動と競合していないか	A (2)	事業主体を見直す余地はない	A	・へき地医療においては民間医療機関では特に採算制の面から事業の継続が難しいため、引き続き市による診療所の運営が必要である
			B (1)	一部見直しが必要である		
			C (0)	市が実施する必要性が低い		
③	活動内容の有効性	・目的とする成果があがっているか ・成果指標などの目標値の達成状況はどうか	A (2)	目的とする成果が十分にあがっている	B	・地域に唯一の総合的な医療を提供するかかりつけ医として、地域住民の安心安全な暮らしの実現を図るうえで「へき地診療所」は重要な役割を担っている ・医療機器の老朽化が進んでおり、早期の計画的な更新が必要である
			B (1)	目的とする成果がある程度あがっている		
			C (0)	目的とする成果があがっていないため大幅な見直しが必要である		
④	執行方法の効率性	・最小限のコストで事業を実施できているか ・委託化など事業の効率化・省力化に向け実施手法に改善の余地はないか ・国等の補助金の活用など市の財政負担を軽減する余地はないか ・受益者負担は適正か	A (2)	事業効率化・コスト縮減等の改善の余地はない	B	・医療機器の保守点検を実施し、安全管理と高額修理の防止を図っている
			B (1)	事業効率化・コスト縮減等がある程度図られている		
			C (0)	効率化が図られていないため大幅な見直しが必要である		
⑤	政策面における効果	・事業の実施が市の政策、施策の推進に効果があったか ・総合計画及び主要計画等の目標達成を図る上で有効に機能したか	A (2)	効果があった	A	・一次医療機関である診療所において、効果的な診断が行える医療機器を導入することにより、市民がいつでも安心して医療が受けられる環境整備に寄与している
			B (1)	ある程度効果があった		
			C (0)	あまり効果が見られなかった		

合計		8 / 10	→	100点換算	80 点
分析・評価で明らかにになった課題(「A」評価にするために何が必要なのかを記入)	・老朽化した医療用機器が多いため、適切な管理と計画的な更新が必要。				

(参考) 前年度事業評価結果(二次評価)	・計画的な医療機器の更新や保守点検の実施により、安心・安全な医療サービスの提供の充実に努めていく。
-------------------------	---

4 今後の方向性(Action)

課題等に対する28年度の対応状況	・診療録の電子化に向け、電子カルテシステムを導入する。 ・解析付心電計(清見、久々野)、ビデオ上部消化器内視鏡システム(荘川)、X線一般撮影装置(板尾)を更新する。
------------------	---

担当課における次年度の考え方	○	維持・改善		拡大		縮小		廃止の検討		H27完了		H28完了予定
	・計画的な医療機器の更新や保守点検の実施により、安心・安全な医療サービスの提供の充実に努めていく。											

平成28年度事業評価シート

事業名		21200	医療用消耗機材費		担当課		市民保健部医療課		内線
									2801
予算	会計	3	国民健康保険事業特別会計(直営診療施設勘定)		総合計画	基本分野	4	福祉・保健	
	款	2	医薬費			個別分野	6	医療	
	項	1	医薬費			施策の概要	1	地域医療体制の充実	
	目	2	医療用消耗機材費						
根拠計画									
実施計画事業		直営診療所運営事業(特別会計)							

1 事業の目的・概要(Plan)

目的	誰を(対象)	対象施設診療圏域住民(利用患者)	対象者数	12,473 人
	どういう状態にしたいのか(意図)	・地域住民がいつでも安心して医療が受けられる環境の整備とへき地医療の確保を図る		
概要	事業の実施手法(手段)	・医療用消耗品、被服の購入		

2 事業の推移・結果(Do)

成果面	H27の実績		診療所開設状況(6か所) 延べ診察日数 1,329日 延べ利用患者数 30,274人						
	指標名		単位	目標・実績	H27	H28	H29	H30	H31
	活動指標	延べ診療日数	日	目標値					
				実績値	1,329	—	—	—	—
		算出根拠等	各診療所の診療実日数	達成率(%)		—	—	—	—
				目標値					
				実績値		—	—	—	—
		算出根拠等		達成率(%)		—	—	—	—
	成果指標			目標値					
				実績値		—	—	—	—
		算出根拠等		達成率(%)		—	—	—	—
				目標値					
				実績値		—	—	—	—
		算出根拠等		達成率(%)		—	—	—	—
	コスト面	延べ利用患者数	人	目標値					
				実績値	30,274	—	—	—	—
		算出根拠等	各診療所の利用患者数	達成率(%)		—	—	—	—
				目標値					
				実績値		—	—	—	—
		算出根拠等		達成率(%)		—	—	—	—
コスト面	事業費 (人件費を除き繰越・補正を含む)			H27 決算額	H28 予算額	H29 予算額	H30 予算額	H31 予算額	
	歳出(千円)			(A)	5,629	7,000	—	—	—
	財源内訳	受益者負担(使用料・負担金等)			5,629	7,000	—	—	—
		その他特定財源(国・県支出金・起債等)			0	0	—	—	—
		一般財源			0	0	—	—	—
	コスト指標	受益者1件当たり(円)			(A/B)	444	561	—	—
		受益者	対象施設診療圏域住民	(B)	12,681	12,473	—	—	—

3 分析・評価(Check) ※平成27年度の実績を評価

評価項目		評価観点	評価基準		評価	評価内容の説明(評価の理由等)
①	市民ニーズの確認	・事業実施に対する市民ニーズの傾向はどうか ・社会情勢の変化など時の経過に伴いニーズは減少していないか	A (2)	ニーズが高い	A	・遠隔地の医療確保に対する地域住民の要望は大きいことから必要性は非常に高い
			B (1)	ある程度のニーズがある		
			C (0)	ニーズが低い		
②	市が実施する必要性	・市が事業主体であることは妥当か ・国・県・民間の活動と競合していないか	A (2)	事業主体を見直す余地はない	A	・へき地医療においては民間医療機関では特に採算制の面から事業の継続が難しいため、引き続き市による診療所の運営が必要である
			B (1)	一部見直しが必要である		
			C (0)	市が実施する必要性が低い		
③	活動内容の有効性	・目的とする成果があがっているか ・成果指標などの目標値の達成状況はどうか	A (2)	目的とする成果が十分にあげている	B	・地域に唯一の総合的な医療を提供するかかりつけ医として、地域住民の安心安全な暮らしの実現を図るうえで「へき地診療所」は重要な役割を担っている
			B (1)	目的とする成果がある程度あがっている		
			C (0)	目的とする成果があがっていないため大幅な見直しが必要である		
④	執行方法の効率性	・最小限のコストで事業を実施できているか ・委託化など事業の効率化・省力化に向け実施手法に改善の余地はないか ・国等の補助金の活用など市の財政負担を軽減する余地はないか ・受益者負担は適正か	A (2)	事業効率化・コスト縮減等の改善の余地はない	B	・在庫管理を徹底し共同発注を進める必要がある
			B (1)	事業効率化・コスト縮減等がある程度図られている		
			C (0)	効率化が図られていないため大幅な見直しが必要である		
⑤	政策面における効果	・事業の実施が市の政策、施策の推進に効果があったか ・総合計画及び主要計画等の目標達成を図る上で有効に機能したか	A (2)	効果があった	A	・直営診療所の適正な運営を図ることにより、市民がいつでも安心して医療が受けられる環境整備に寄与している
			B (1)	ある程度効果があった		
			C (0)	あまり効果が見られなかった		

4 今後の方向性(Action)

課題等に対する28年度の対応状況		・必要な医療用消耗機材の選定、計画的な購入、適切な在庫管理を行う。									
担当課における次年度の考え方		O	維持・改善		拡大		縮小		廃止の検討		
		・患者の需要に応じた医療用消耗品の購入を適正に行うなど安心・安全な医療サービスの提供の充実に努めていく。									

平成28年度事業評価シート

事業名		21300	医薬品衛生材料費		担当課		市民保健部医療課		内線
									2801
予算	会計	3	国民健康保険事業特別会計(直営診療施設勘定)		総合計画	基本分野	4	福祉・保健	
	款	2	医薬費			個別分野	6	医療	
	項	1	医薬費			施策の概要	1	地域医療体制の充実	
	目	3	医薬品衛生材料費						
根拠計画									
実施計画事業			直営診療所運営事業(特別会計)						

1 事業の目的・概要(Plan)

目的	誰を(対象)	対象施設診療圏域住民(利用患者)			対象者数	12,473 人
	どういう状態にしたいのか(意図)	・地域住民がいつでも安心して医療が受けられる環境の整備とへき地医療の確保を図る				
概要	事業の実施手法(手段)	・医薬品の購入(内用薬、外用薬、注射薬)				

2 事業の推移・結果(Do)

成果面	H27の実績		診療所開設状況(6か所) 延べ診察日数 1,329日 延べ利用患者数 30,274人							
	指標名		単位	目標・実績	H27		H29	H30	H31	
	活動指標	延べ診察日数	日	目標値						
				実績値	1,329	—	—	—	—	
		算出根拠等	各診療所の診療実日数	達成率(%)		—	—	—	—	
				目標値						
				実績値		—	—	—	—	
		算出根拠等		達成率(%)		—	—	—	—	
				目標値						
				実績値		—	—	—	—	
	算出根拠等		達成率(%)		—	—	—	—		
	成果指標	延べ利用患者数	人	目標値						
				実績値	30,274	—	—	—	—	
		算出根拠等	各診療所の利用患者数	達成率(%)		—	—	—	—	
後発品占有率(契約品目ベース)		%	目標値	25	25	25	25	25		
			実績値	28	—	—	—	—		
算出根拠等			達成率(%)	112	—	—	—	—		
			目標値							
			実績値		—	—	—	—		
算出根拠等		達成率(%)		—	—	—	—			
コスト面	事業費 (人件費を除き繰越・補正を含む)			H27 決算額	H28 予算額	H29 予算額	H30 予算額	H31 予算額		
	歳出(千円)			(A)	36,540	40,000	—	—	—	
	受益者負担(使用料・負担金等)				36,540	40,000	—	—	—	
	その他特定財源(国・県支出金・起債等)				0	0	—	—	—	
	一般財源				0	0	—	—	—	
	コスト 指標	受益者1件当たり(円)			(A)／(B)	2,881	3,207	—	—	—
		受益者	対象施設診療圏域住民	(B)	12,681	12,473	—	—	—	—

3 分析・評価(Check) ※平成27年度の実績を評価

評価項目		評価観点	評価基準		評価	評価内容の説明(評価の理由等)
①	市民ニーズの確認	・事業実施に対する市民ニーズの傾向はどうか ・社会情勢の変化など時の経過に伴いニーズは減少していないか	A (2)	ニーズが高い	A	・遠隔地の医療確保に対する地域住民の要望は大きいことから必要性は非常に高い
			B (1)	ある程度のニーズがある		
			C (0)	ニーズが低い		
②	市が実施する必要性	・市が事業主体であることは妥当か ・国・県・民間の活動と競合していないか	A (2)	事業主体を見直す余地はない	A	・へき地医療においては民間医療機関では特に採算制の面から事業の継続が難しいため、引き続き市による診療所の運営が必要である
			B (1)	一部見直しが必要である		
			C (0)	市が実施する必要性が低い		
③	活動内容の有効性	・目的とする成果があがっているか ・成果指標などの目標値の達成状況はどうか	A (2)	目的とする成果が十分にあげている	B	・地域に唯一の総合的な医療を提供するかかりつけ医として、地域住民の安心安全な暮らしの実現を図るうえで「へき地診療所」は重要な役割を担っている
			B (1)	目的とする成果がある程度あがっている		
			C (0)	目的とする成果があがっていないため大幅な見直しが必要である		
④	執行方法の効率性	・最小限のコストで事業を実施できているか ・委託化など事業の効率化・省力化に向け実施手法に改善の余地はないか ・国等の補助金の活用など市の財政負担を軽減する余地はないか ・受益者負担は適正か	A (2)	事業効率化・コスト縮減等の改善の余地はない	B	・在庫管理の徹底し、共同発注及び後発品の積極的採用を行っている
			B (1)	事業効率化・コスト縮減等がある程度図られている		
			C (0)	効率化が図られていないため大幅な見直しが必要である		
⑤	政策面における効果	・事業の実施が市の政策、施策の推進に効果があったか ・総合計画及び主要計画等の目標達成を図る上で有効に機能したか	A (2)	効果があつた	A	・直営診療所の適正な運営を図ることにより、市民がいつでも安心して医療が受けられる環境整備に寄与している
			B (1)	ある程度効果があつた		
			C (0)	あまり効果が見られなかった		

4 今後の方向性(Action)

課題等に対する 28年度の対応状況		・医薬品目削減の検討や定期的な在庫チェックの実施を継続して行う。										
担当課における 次年度の考え方	○	維持・改善		拡大		縮小		廃止の検討		H27完了		H28完了予定
	・患者の需要に応じた医薬品の購入を適正に行うなど安心、安全な医療サービスの提供の充実に努めていく。											

平成28年度事業評価シート

事業名		21400	医療業務委託費		担当課		市民保健部医療課		内線
									2801
予算	会計	3	国民健康保険事業特別会計(直営診療施設勘定)		総合計画	基本分野	4	福祉・保健	
	款	2	医療費			個別分野	6	医療	
	項	1	医療費			施策の概要	1	地域医療体制の充実	
	目	4	医療業務委託費						
根拠計画									
実施計画事業			直営診療所運営事業(特別会計)						

1 事業の目的・概要(Plan)

目的	誰を(対象)	対象施設診療圏域住民(利用患者)			対象者数	12,473 人
	どういう状態にしたいのか(意図)	・地域住民がいつでも安心して医療が受けられる環境の整備とへき地医療の確保を図る				
概要	事業の実施手法(手段)	主な医療業務の委託 ・代診医の派遣 ・血液検査、高度医療検査 ・歯科診療 ・介護サービス				

2 事業の推移・結果(Do)

成果面	H27の実績		診療所開設状況(6か所) 延べ診察日数 1,329日 延べ利用患者数 30,274人						
	指標名		単位	目標・実績	H27	H28	H29	H30	H31
	活動指標	延べ診療日数	日	目標値					
				実績値	1,329	—	—	—	—
		算出根拠等	各診療所の診療実日数	達成率(%)		—	—	—	—
				目標値					
				実績値		—	—	—	—
		算出根拠等		達成率(%)		—	—	—	—
				目標値					
				実績値		—	—	—	—
	算出根拠等		達成率(%)		—	—	—	—	
	成果指標	延べ利用患者数	人	目標値					
				実績値	30,274	—	—	—	—
		算出根拠等	各診療所の利用患者数	達成率(%)		—	—	—	—
				目標値					
				実績値		—	—	—	—
		算出根拠等		達成率(%)		—	—	—	—
				目標値					
実績値					—	—	—	—	
算出根拠等		達成率(%)		—	—	—	—		
コスト面	事業費 (人件費を除き繰越・補正を含む)			H27 決算額	H28 予算額	H29 予算額	H30 予算額	H31 予算額	
	歳出(千円) (A)			24,930	28,940	—	—	—	
	受益者負担(使用料・負担金等)			21,178	24,610	—	—	—	
	その他特定財源(国・県支出金・起債等)			3,752	4,330	—	—	—	
	一般財源			0	0	—	—	—	
	コスト 指標	受益者1件当たり(円) (A／B)		1,966	2,320	—	—	—	
		受益者	対象施設診療圏域住民 (B)	12,681	12,473	—	—	—	

3 分析・評価(Check) ※平成27年度の実績を評価

評価項目		評価観点		評価基準		評価	評価内容の説明(評価の理由等)	
①	市民ニーズの確認	・事業実施に対する市民ニーズの傾向はどうか ・社会情勢の変化など時の経過に伴いニーズは減少していないか	A (2)	ニーズが高い		A	・遠隔地の医療確保に対する地域住民の要望は大きいことから必要性は非常に高い	
			B (1)	ある程度のニーズがある				
			C (0)	ニーズが低い				
②	市が実施する必要性	・市が事業主体であることは妥当か ・国・県・民間の活動と競合していないか	A (2)	事業主体を見直す余地はない		A	・へき地医療においては民間医療機関では特に採算制の面から事業の継続が難しいため、引き続き市による診療所の運営が必要である	
			B (1)	一部見直しが必要である				
			C (0)	市が実施する必要性が低い				
③	活動内容の有効性	・目的とする成果があがっているか ・成果指標などの目標値の達成状況はどうか	A (2)	目的とする成果が十分にあげている		B	・地域に唯一の総合的な医療を提供するかかりつけ医として、地域住民の安心安全な暮らしの実現を図るうえで「へき地診療所」は重要な役割を担っている	
			B (1)	目的とする成果がある程度あがっている				
			C (0)	目的とする成果があがっていないため大幅な見直しが必要である				
④	執行方法の効率性	・最小限のコストで事業を実施できているか ・委託化など事業の効率化・省力化に向け実施手法に改善の余地はないか ・国等の補助金の活用など市の財政負担を軽減する余地はないか ・受益者負担は適正か	A (2)	事業効率化・コスト縮減等の改善の余地はない		B	・市内中核病院との連携については、代診医派遣や患者紹介、高度医療機器の共同利用を行っている ・診療所間連携については、医師、看護師等の人的応援を行っている	
			B (1)	事業効率化・コスト縮減等がある程度図られている				
			C (0)	効率化が図られていないため大幅な見直しが必要である				
⑤	政策面における効果	・事業の実施が市の政策、施策の推進に効果があったか ・総合計画及び主要計画等の目標達成を図る上で有効に機能したか	A (2)	効果があった		A	・直営診療所の適正な運営を図ることにより、市民がいつでも安心して医療が受けられる環境整備に寄与している	
			B (1)	ある程度効果があった				
			C (0)	あまり効果が見られなかった				

合計		8	/	10	→	100点換算	80	点
----	--	---	---	----	---	--------	----	---

分析・評価で明らかにになった課題 (「A」評価にするために何が必要なかを記入)	・市内中核病院との連携をさらに進め、広域の視点から見た体制づくりや連携に向けた検討が必要。
--	---

(参考) 前年度事業評価結果 (二次評価)	・引き続き採算性向上のため、診療所間及び中核病院との連携を強化し効率的で機能的な診療体制の充実に努めていく。
-----------------------------	--

4 今後の方向性(Action)

課題等に対する28年度の対応状況	・市内中核病院と連携を密にし、広域的な体制づくりの検討を行っている。
------------------	------------------------------------

担当課における次年度の考え方	O	維持・改善		拡大		縮小		廃止の検討		H27完了		H28完了予定
	・引き続き採算性向上のため、診療所間及び中核病院との連携を強化し効率的で機能的な診療体制の充実に努めていく。											